

チャレンジ！！オープンガバナンス 2023 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名(注1)	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
	-(事務局用)	持続可能な障がい者雇用	群馬県太田市
チームがつけたアイデア名(公開)(注2)	障がい者と企業を繋ぐ新しい架け橋「おおたんワークス NEO」		

(注1) 地域課題名は、COG2023 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち赤字部分は削除して該当する番号を記入のこと

チーム名(公開)	関東学園大学 地域活性協力隊「おおたんしふおんず」		
チーム属性(公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	3	
メンバー数(公開)	5名		
代表者(公開)	山本 彩水		
メンバー(公開)	福士 翔琉、森 美聡、城田 宗政、茂木 友真		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募内容の公開＞

1. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
2. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示-非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。
<https://creativecommons.jp/licenses/>)
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません)
4. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

5. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
6. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認

確認後 OK なら右に○印を記入 → ○

2. アイデアの説明(公開)

(1) アイデアの内容(公開)

(1)アイデアの内容、(2)アイデアの理由、(3)実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて説明の途中に図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容(公開)

アイデアは、対象とする課題解決のために、**何を**する社会的な活動(サービス)なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、**魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいなる**、そしてその結果として、課題が解決される、そんな**わくわく感のあるアイデア**を期待します。**2ページ以内**でご記入ください。

<応募チームとして**解決したい課題のポイント**はこれです！を**ごく短く以下**に書いてください>

<解決したい課題のポイント>

ポイント① 企業の障がい者雇用に対する理解促進

ポイント② 障がい者の仕事に対する「やりがい」創出とキャリア形成

<以上の課題解決のために**「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するか**をわかりやすく書いてください> <アイデアが具体的に**実行される場面**を想定してください。>

<よいアイデアを生むには**関連データの分析確認とデザイン思考**によるアイデアを使う人への共感が原点です>

■関東学園大学地域活性協力隊「おおたんしふおんず」



関東学園大学(群馬県太田市)の卒業後公務員を目指す学生チーム。大学では学生団体「地域活性協力隊」に所属し、普段は地域活性につながる活動や地域のボランティア活動に参加。今回、地元太田市が提示したテーマ「持続可能な障がい者雇用」への解決策検討を通じ、統計情報のみならず、実際に障がい者雇用をしている企業を見学し働く障がい者の方へインタビューを行い、高等特別支援学校を訪問では就職の実態を知りました。チャレンジオープンガバナンスに参加することで、これまで知ることのなかった障がい者雇用の実態を学ぶ貴重な機会となりました。

<提案するアイデアの内容>

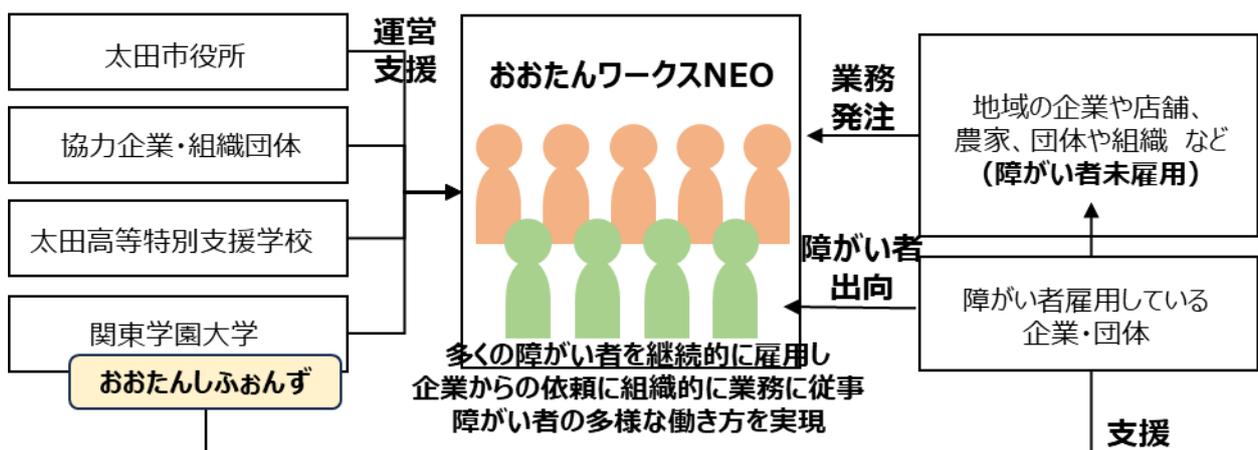
ビジネスの手法を活用し社会課題を解決する

産官学で創り支える持続可能な障がい者雇用に向けたビジネスモデル「おおたんワークス NEO」

■「おおたんワークス NEO」概要

「おおたんワークス NEO」は、持続可能な障がい者雇用を目指し、太田市と関東学園大学を中心に地域企業・組織、太田高等特別支援学校の協力を得て設立する軽作業アウトソーシング企業。地域の企業や店舗、農家、団体や組織などから業務を請け負い障がい者雇用への理解促進を図ります。また、障がい者を直接雇用している企業から障がい者を出向で受け入れることで、雇用企業の負担を軽減し長期的な雇用継続につなげます。

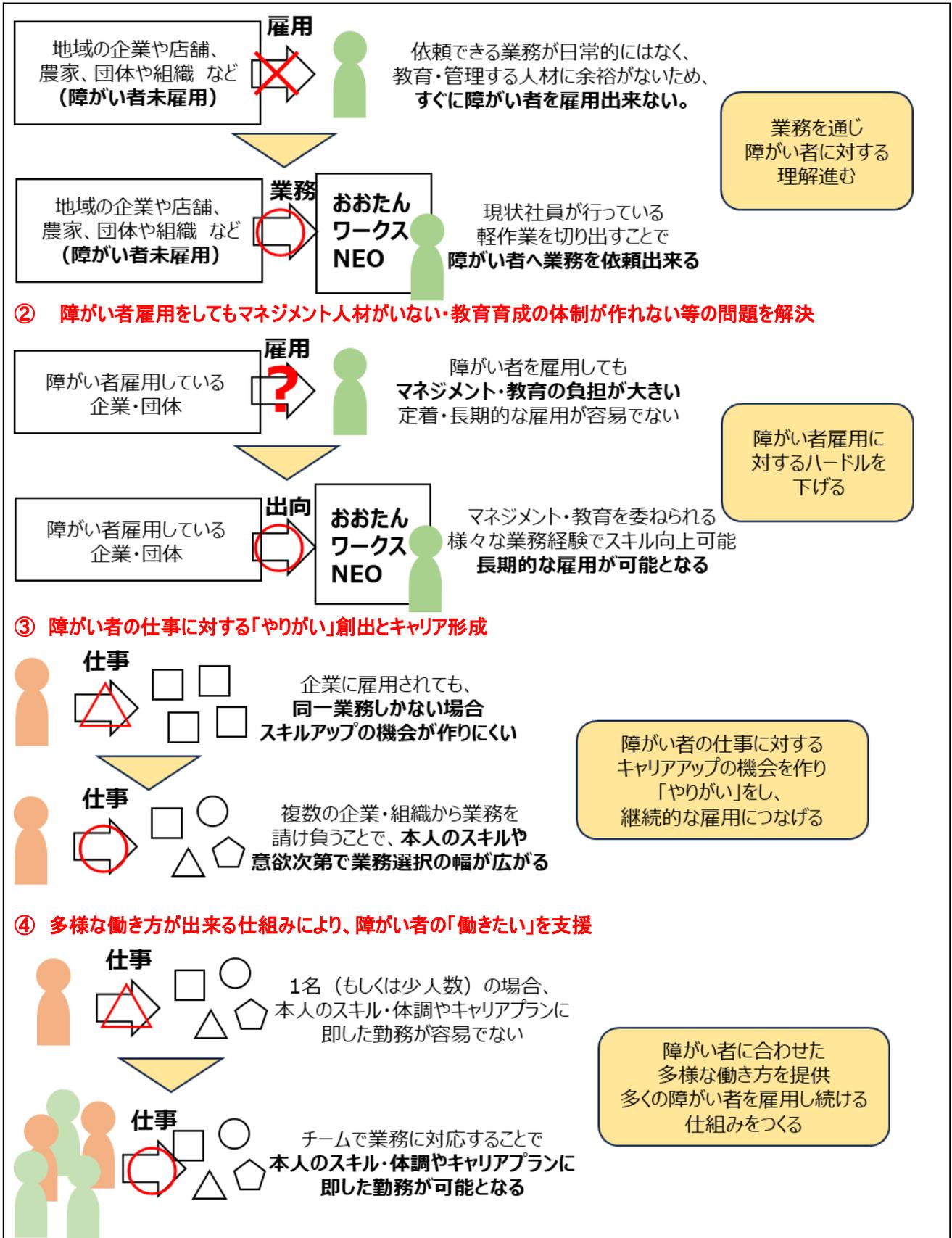
■おおたんワークス NEO が解決する課題・生み出す価値



① 障がい者に任せられる仕事がない問題を解決(企業の障がい者雇用への理解促進)

2. アイデアの説明(公開)

(1) アイデアの内容(公開)



(2) アイデアの理由(公開)

次にアイデアを提案する理由(なぜ)について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・

経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由(なぜ)を書いていきます>

<先の(1)で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかの理由を上記のデータを示しつつわかりやすく書いていきます>

■「おたんワークス NEO」構想の背景

① 働きたくても働けない障がい者が多く存在する。

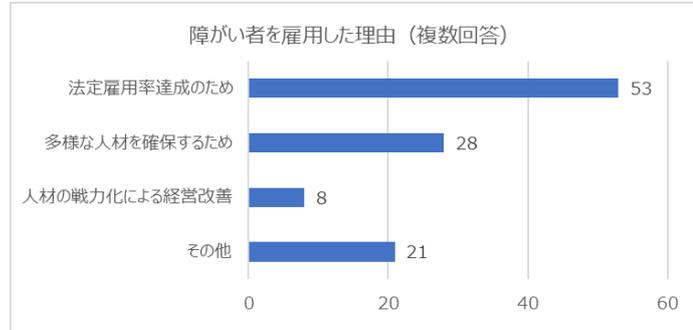
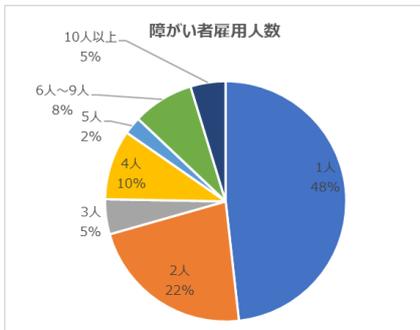
厚生労働省「令和4年度障害者の職業紹介状況等」によると、令和4年度のハローワークを通じた新規求職申込件数は 233,434 件に対して就職件数は 102,537 件となっている。就職率は 43.9%であり、一般職業紹介状況において令和4年度平均有効求人倍率が 1.31 倍であることを鑑みると、障がい者が働きたいと考えても、多くが就職できていない状況にあるといえる。

② 障がい者法定雇用率未達成の民間企業が多く存在する。

民間企業の法定雇用率は 2.3%であるが、厚生労働省「令和4年 障害者雇用状況」の集計結果によると、法定雇用率達成企業の割合は 48.3%であり、半数以上の企業で障がい者雇用が進んでいない。

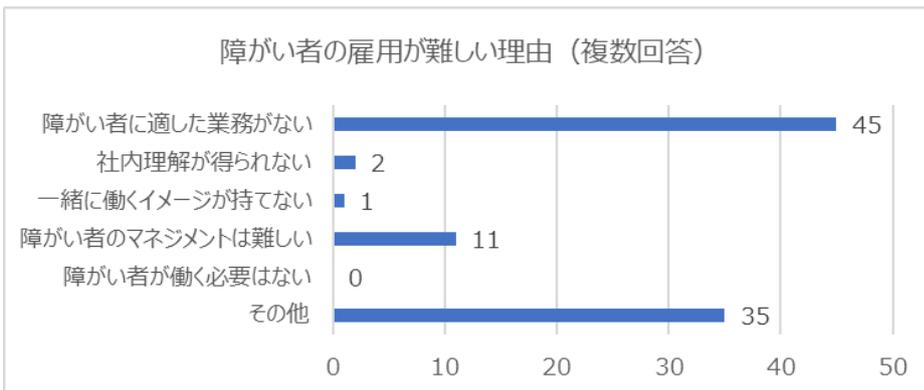
③ 障がい者雇用をしている企業の多くの雇用人数は1名であり、理由は「法定雇用率達成のため」

太田市が令和3年12月に実施した「障がい者雇用に関する市内企業向けアンケート」結果によると(回答数 135 事業所)障がい者を雇用している企業の約半数が 1名の雇用(2名まで含めると約7割)であり、理由を法定雇用率達成のためとしている。



④ 障がい者雇用が難しい理由は「任せられる仕事がない」「担当する人材がない」

同様に「障がい者雇用に関する市内企業向けアンケート」結果によると、太田市内における企業・事業所の多くが「障がい者に適した業務がない」「障がい者のマネジメントは難しい」ことを障がい者を雇用することが難しい理由にあげている。



⑤ 障がい者でも健常者と変わらない仕事ができる

令和5年10月、太田市内で障がい者を積極的に雇用している株式会社エス・エス・シー(本社:太田市・各種請負業務業)を訪問。働く障がい者の業務の様子を見学と障がい者へのインタビューを通じ、障がい者が担うべき業務と役割を明確にすることで、健常者と変わらない仕事が可能であることを学ぶ。



⑥ 専門組織化することで他社の業務を請け負うことができる

令和5年10月、太田市に工場を置く株式会社 SUBARU の特例子会社スバルブルーム株式会社を訪問。スバルブルーム社は障がい者を80名雇用し、SUBARU社の独身寮や工場建屋内の清掃をチームで請け負っている。専門組織化することによる他社業務請け負える可能性があることを知る。

⑦ 教育体制があれば障がい者は多種多様な業務スキルを習得出来る

令和5年11月、群馬県立太田高等特別支援学校を訪問し、当校の教育体制、就職に向けた職業実習の様子を見学。実習の領域は清掃・縫製・木工・コンクリート・陶芸・園芸など多岐にわたり、実際に企業から軽作業を請け負い実習を行っている。

⑧ 軽作業を外注化することで組織の生産性は向上する

令和5年12月、太田市役所を訪問。太田市役所では「おおたんワークス」という組織を人事課内に設置し、障がい者を3名雇用し庁内の定型作業・簡易作業を請け負っている。分散していた業務を集約することにより、業務時間26.1%削減し、依頼した部門の残業時間も最大で約36%削減し、該当業務にかかる経費も50%程度の削減が実現している。

⑨ 障がい者のスキルアップの仕組み・機会が必要

おおたんワークスで働く障がい者にインタビューを実施。多様な業務があることで、新たな業務にチャレンジする気持ちが出て、自分のスキルアップにつながっていると話を伺う。

⑩ 障がい者のライフプランを実現する働き方を提供する場が必要

太田市産業政策課に配属されている障がい者(身体障害)木村萌愛さんにインタビューを実施。木村さんは令和5年に鹿児島県で開催された特別全国障がい者スポーツ大会のポッチャ競技で金メダルを獲得し、2028年ロサンゼルス・パラリンピックを目指して、実現に向けた働き方を模索している。パラスポーツ選手に限らず、全ての障がい者がライフプランを実現する働き方、働ける場所を提供する必要性を学習。

■障がい者雇用の壁を乗り越え持続的な障がい者雇用を実現するために

今後の法定雇用率引き上げが予定され、今までのやり方では障がい者雇用が進まなくなる恐れがある。

- ・任せられる仕事がない／担当する人材がないとする企業からも仕事を請け負う
 - 軽作業業務を外注化することで企業の生産性向上にも寄与する
- ・雇用人数を増やし、チームで業務を担当する
 - 人数がいることで、多様で柔軟な働き方ができる環境にする
- ・教育体制を整え多様な業務を経験することでキャリアアップの機会を創る
 - 将来的な企業の正規雇用につなげていく



スバルブルーム見学



太田高等特別支援学校見学



太田市役所「おおたんワークス」見学



木村萌愛さんインタビュー

解決方針:

太田市が運用している社内組織「おおたんワークス」を発展的に拡大する形で新たな組織を立ち上げていく。

(3) アイデア実現までの流れ(公開)

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

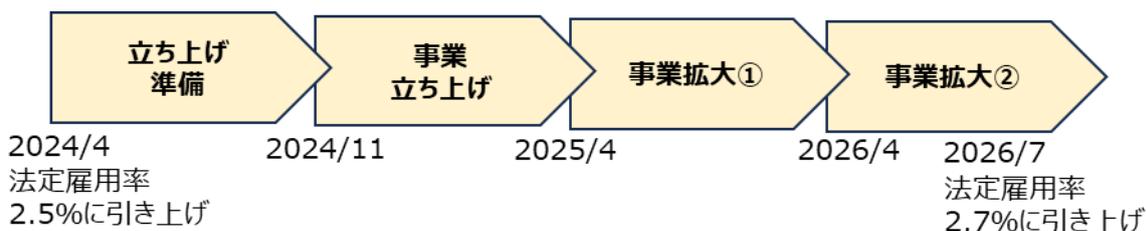
＜アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまづ＞

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1. **実現する主体** : おおたんワークス NEO は太田市役所が中心となり、2024 年 4 月から立ち上げ準備開始し、3 カ年計画で 4 つのステージに分け事業を立ち上げていきます。

3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**



ステージ1: 立ち上げ準備(2024 年 4 月～)

太田市役所内に、継続的な障がい者雇用を目指した新しい仕組み「おおたんワークス NEO」立ち上げを目的にした、準備組織(おおたんワークス NEO 準備委員会)を設立。関係各所との調整のうえ詳細な事業計画策定し、立ち上げに向けた合意形成を進める。

おおたんワークスNEO
設立準備委員会
設置
(太田市役所内)

ステージ2: 事業立ち上げ(2024 年 11 月～)

既存の「おおたんワークス」を移行する形で太田市役所内に、おおたんワークス NEO を設立し事業開始。既存の太田市役所内の業務に加え、協力会社数社から業務を受託し事業モデルを確立。同時に事業拡大に向け、障がい者受け入れ体制の準備、市内企業向けに事業説明会等を実施し、受託業務拡大に向けた活動を行う。

おおたんワークスNEO
設立・事業開始
障がい者雇用人数
4名

ステージ3: 事業拡大①: 請負業務・雇用人数の拡大(2025 年 4 月～)

おおたんワークス NEO を主事業とする法人を設立し、太田市役所内から独立させ本格的な事業展開を開始する。障がい者を直接雇用し、請け負う業務を増やす。

おおたんワークスNEO
法人設立
障がい者雇用人数
12名

ステージ4: 事業拡大②: 企業から出向受け入れ／事業モデルパッケージ化(2026 年 4 月～)

おおたんワークス NEO への業務依頼を契機に、障がい者を直接雇用する企業を増やし出向を受け入れ事業を拡大していく。おおたんワークス NEO が独立した事業組織として継続性が見込めた段階で、事業をパッケージ化し、太田市以外の地域へ展開を目指す。

事業拡大
事業黒字化
障がい者雇用人数
22名

2.実現に必要な資源(ヒト・モノ・カネ)

障がい者雇用を社会福祉ではなく、ビジネスとして成立させることで継続性が確保できると考え、事業として利益が出る状態を目指す。

■収支試算前提

働く障がい者の人件費の考え方:

A:1日8時間勤務(うち請負業務6時間)、1ヶ月20日勤務 人件費20万円

B:1日8時間勤務(うち請負業務6時間)、1ヶ月15日勤務 人件費15万円

C:1日8時間勤務(うち請負業務6時間)、1ヶ月10日勤務 人件費10万円

運営スタッフ(健常者)の人件費:

マネジメント人材 人件費40万/運営スタッフ 人件費25万

業務請負

障がい者1名1時間工数業務 基本単価 2,500円

A:月間で100時間分の業務を発注してくれる企業 月売上25万/社

B:月間で50時間分の業務を発注してくれる企業 月売上12万5,000円/社

C:月間で10時間分の業務を発注してくれる企業 月売上25,000円/社

その他経費

事業規模に応じて通信費や消耗品等を月額15万~30万で想定

■初期投資に対する考え方

活動拠点を市役所内とし必要備品についても太田市より無償貸与いただくことで初期投資を限りなく0とする。

■収支計画

2年目までは赤字、3年目から55社から月間1,800時間分の業務を受託し、22名の障がい者雇用を実現し、単月黒字も目指す。

		初年度目標(単月)	2年目目標(単月)	3年目目標(単月)	3年目目標(通年)
売上	発注企業数				
	A	1	3	5	5
	B	2	10	20	10
	C	5	15	30	30
	総請負企業数	8	28	55	45
	請負業務(時間)				
	A	100	300	500	6,000
	B	50	500	1,000	12,000
	C	10	150	300	3,600
	総業務時間	250	950	1,800	21,600
売上		2,500	2,375,000	4,500,000	54,000,000
売上計		625,000	2,375,000	4,500,000	54,000,000
支出	障がい者雇用人数				
	A	2	2	4	5
	B	1	4	8	10
	C	1	6	10	20
	計	4	12	22	35
	障がい者請負業務時間				
	A	120	240	480	5,760
	B	90	360	720	8,640
	C	60	360	600	7,200
	計	390	960	1,800	21,600
	障がい者人件費				
	A	200,000	400,000	800,000	9,600,000
	B	150,000	600,000	1,200,000	14,400,000
	C	100,000	600,000	1,000,000	12,000,000
	計	650,000	1,600,000	3,000,000	36,000,000
	運営スタッフ				
	A	1	1	1	1
	B	1	2	3	3
	計	2	3	4	4
	運営スタッフ人件費				
	400,000	400,000	400,000	400,000	4,800,000
	250,000	250,000	500,000	750,000	9,000,000
	計	650,000	900,000	1,150,000	13,800,000
	その他経費	150,000	200,000	300,000	3,600,000
支出計		1,450,000	2,700,000	4,450,000	53,400,000
収支		-825,000	-325,000	50,000	600,000

★企業開拓は、太田市役所の協力を得て「おたしふおんず」が中心に実施。